

参考－2

行政事業レビューに係る意見募集の結果について（報告）

総務省では、国民の皆様からの声を事業の執行や予算要求等に活かしていく観点から、行政事業レビューの対象事業について下記のとおり意見募集を実施。

いただいたご意見等については、既に担当部局に通知済みのものであり、今後の事業執行に資することとする。

記

1. 公開プロセスによる行政事業レビュー案件のみに係る意見募集

(1) 募集期間：平成24年6月4日～7月20日【47日間】

(2) 提出意見：5件（別添のとおり。）

2. 行政事業レビュー全体に係る意見募集

(1) 募集期間：平成24年7月5日～31日【27日間】

(2) 提出意見：なし。

【別添】

公開プロセスによる行政事業レビュー案件に寄せられた意見

意見募集期間中に寄せられたご意見は次のとおり。

全て「フューチャースクール推進事業」に対するご意見であり、固有名詞を除き原文を受信順に掲載(ただし、段落については適宜調整)。

ご意見1 (6/21 (木) 1:06 受信)

今回の事業仕分けにおける「フューチャースクール事業」の廃止の判断をすると聞きましたが、反対いたします。

現在、先進諸国においても日本の教育環境、方法の遅れが教育関係者の中でも強く言われており、特に米国や韓国と比較してもその差は歴然としているように感じています。管轄がどこ、とか議論している場合ではないとの認識をしていただきたい。

仮に文科省で継続すると言っても、総務省で却下された事業や予算を他の省庁と一緒に、或いは譲り渡して実施するという仕組みは現状無いと認識しています。単に「自分のところの予算の削減を実現した」という評価を得ようという魂胆ですよね。きちんと文科省への引き継ぎ計画はできているのでしょうか？無いでしょ？厄介な事案を他へたらい回しする悪習はやめていただきたい！仮に他省庁で引き受けたとしても、また、ゼロから計画し何年も先送りになってしまうのではないのでしょうか？

問題がハード先行、ソフト、スキルの遅れと理解しているのであれば、その導入方法であって廃止する事ではないのではないのでしょうか？この国では一度、廃止、或いは中止等としてしまうと以降に再浮上する事はとても難しいのではないかと思います。

ハードの導入、ソフト(コンテンツだけでなく学習方法)、教員(或いは指導員)のスキルアップを同時に進めなければ効果を出す事は難しいとは考えていますが、大規模にやろうとすればソフトが間に合いません。小規模からであれば可能です。

格差という問題は生じますが、元々、色々な格差は現実に存在しているのですから、そこを論じているよりも先行して、検証事例をできるだけ多くつくり、そこから検証し、学び、共有して広げていくしかないのではないかと思います。

全体で共通の検証である必要は全く不要です。検証参加校を募集し、自分たちで検証計画を作らせて、それぞれ別の実験検証を行えばよいのです。小中学校に限らず塾や専門学校、大学と広く募集するべきです。年齢や専門性により利用の形態は違うのが当たり前です。それさえも予算が無ければ実施できません。

今回の廃止案は撤回、逆に予算増額でお願いしたいと思います。人材の育成なくして国は成り立ちません。削るところは他にたくさんあるはずですよ。

ご意見2 (6/21 (木) 15:10 受信)

弊社は平成22年度から平成23年度まで、〇〇県の〇〇市教育委員会の委託を受け、ICT 支援員業務を行ってきました。今年度は委託業務が終了しましたが、まだまだサポートを必要としている学校や先生がいらっしゃるのが現実です。そういった学校や先生方の声にお応えするため、会社内に新たな課を発足させました。私は 2 年間 ICT 支援員として学校で業務経験を積み、現在は社員として学校 ICT 支援のための活動をしています。

さて、〇〇県〇〇地方にはまだまだ ICT 環境が十分でない学校が多くあります。地域や学校によっても差がありますが、調べ学習をしたくてもパソコンの動作が悪いため活動をあきらめてしまう学校もあります。デジタルテレビ(50 型)はかなりの台数が入っていますが、電子黒板は最低数の 1 校に 1 台、タブレット端末の導入は未だありません。また、50 型の電子黒板では実際の教育現場では十分にその良さを発揮できません。(真ん中の席あたりからはよく見えないのです。)

日本は世界的に見ても学校の ICT 化が非常に遅れているとのこと。近い将来、世界に追いつくように電子黒板や児童用タブレット端末の導入が進んでいくと予想されます。フューチャースクール推進事業での成果は今後の学校 ICT 化推進のために貴重な指針です。モデル校の様子や事業の成果報告を踏まえて、児童用タブレット PC の導入を検討し始めている自治体もあります。

しかし、各自治体に任せた形では、今後ますます地域格差が生じてしまいます。子どもたちが平等な環境で十分な教育を受けられるよう、地域格差の出ない事業を要望します。国として学校 ICT 化を推進していくためには、やはり大規模な検証が必要であり、ハード面での実証実験は不可欠なものだと感じています。学校現場では、実際に使ってみないとわからない、整えてみないとわからない事が多いため、ある程度長期的で念入りな準備が必要です。今ここでフューチャースクール推進事業を廃止することにより、今後の学校 ICT 化の推進がさらに遅れてしまうことは容易に想像できます。

フューチャースクール推進事業の成果は十分に評価するべきものであり、継続に値するものだと考えています。仮に、もし廃止の流れになるのであれば、すべての学校へのより充実した ICT 環境整備事業の推進をお願いします。

ご意見3 (6/22 (金) 14:06 受信)

来年度の廃止に関しては賛成できません。

中学校の事業は昨年開始され3年間実施することを前提として、中学校に手を挙げさせています。研究も学びのイノベーション事業と合わせて3年間実施です。

これがどちらか一方になってしまえば、せつかく2年間行ってきた研究が水泡に帰すという可能性も否定できません。これまでの投資が無駄に終わるのです。

また、これに関して、悪質な報道が多くみられます。たとえば、「電子黒板使ったIT授業「廃止」(〇〇新聞)」などは典型的で、フューチャースクール事業の廃止判定が、あたかも、すべての電子黒板を使った IT 事業が終了するような見出しが躍っています。せつかくここまで数年かけて培ってきたものに冷や水をかけるようなマネはしないでください。それこそ税金の無駄になるのです。

シンガポールでは、フューチャースクールは、様々な種類があります。また、その下には LeadICT スクールという指定もあり、他の学校をけん引しています。フューチャースクールをやめるのではなく、継続したうえで、LeadICT スクールのような機能を各都道府県から数校選び実施するように方向づけなくてはならないのに、今回の決定はこれと逆行しています。

日本の教育の実態は、一部のグローバル、グローバル人材以外、まったく使い物にならない人材を育成しているようにも思えます。PISA のテストでもレベル5は国際的にも上位の割合なのに、レベル1、2、が非常に多い。これは、最低限の教育がなされなくなってしまった日本の現状を意味しています。これを打破するためには、教育の情報化は避けて通れません。デジタル読解力についてもトップの韓国とは比べ物にならないくらいお粗末な結果です。

本当にこれからの社会で役に立つ人材を育成するのであれば、官民あげて取り組む必要があり、総務省のフューチャースクール事業はそのフラッグシップです。せめて来年1年間は継続をするべきだと考えています。どうかご検討頂ければ幸いです。

ご意見4 (7/20(金) 17:08 受信)

(意見)

廃止の評価結果に反対し、同事業の存続を求める。

(理由)

本市は、平成 23・24 年度の「フューチャースクール推進事業」の採択を受け、中学校 1 校をモデル校として実証事業を実施しています。また、平成 22 年度には「地域雇用創造 ICT 絆プロジェクト(教育文化事業)」の採択を受け小学校 1 校をモデル校として実証事業を継続しているところです。

これらの事業実施を通じて、ICT 活用教育の有効性と必要性を一層認識するなかで、全国の小中学校への展開が図れるよう、効率的なシステム構築や ICT を活用した効果的な教育方法等について、より汎用性のあるものへと高めるべく、今まさに実証を積み重ねているところであり、様々な成果が見え始めた段階にあります。

教育におけるこうした実証は、短期間で評価できる(するべき)ものではなく、継続

的な取り組みによってよりレベルの高い成果と評価・方向性が得られるものであり、政策目的の達成判断も全国展開が進んでいくまでを含んで考えるべきであり、現段階で目的達成と捉えての廃止はあまりにも中途半端であると考えます。こうしたことから、事業実施中途での廃止に反対し、現事業の存続を強く求めるものです。

また、教育は国力の基礎をなすものであり、その ICT 化は国家戦略であります。この観点から、意欲ある自治体が独自で推進すべきであるとの考え方には、地方自治体の財政的問題からも反対するものです。

ご意見5 (7/20 (金) 19:40 受信)

フューチャースクール推進事業の継続を希望します。

IT 先進国として、勇気ある挑戦を、未来を担う世代に託さなければ、明るい未来を築けない。単純に費用対効果だけで今すぐ足踏みせずに、子どもたちには、IT 先進国として先頭きって学ぶ意欲をもってほしい。

それがフューチャースクール推進事業の継続を希望する理由です。